

山月記 虎」の象徴と変身の意味

①李徵は虎となつてしまつた自分なんかを認めてくれる人はもういないだろうという胸を灼く悲しみを山の頂の巖に上り、空谷に向かつて吼えた。虎になつた自分を李徵は卑下している。

中で「声を長く引いて、詩を吟ずる」ことはできなく「ただ吼える」だけだと表現している。つまり自分は人間のように感情を殺すことはできず、虎のように叫ぶだけだと言つている。

し、李徵が望んでいた「高み」へと上りつめる結果となつた。獸も山も木も露も虎の前に沈黙を続けるしか無かつたのだ。こう考えると李徵が人間の詩かなつかなか

つた夢が虎になることによつてかなつたことがわかる。李徵は人間の時は臆病ゆえに自分が辱めを受けるのを恐れ、(A)本当の感情を押し殺していたから、詩人として名を

「非常に微妙な点」とはそこである。しかし虎になることでそれが解放され他を圧倒することができたのである。

分の内に募つた感情（本音）の暴走である。

②李徵は乏しい才能でありながらもそれを専一に磨くことによつて堂々たる詩家になつたものがいることにようやく気づいたが、今、頭の中でどんなすぐれた詩を作つたと今、頭の中でどんなすぐれた詩を作つたと

自分の頭は日ごとに虎に近づいているという
胸を灼く悲しみを山の頂の巖に上り、空谷
に向かって吼えた。虎になつた自分を李徵
では卑下している。その胸の内を李徵は即興
で作つた漢詩の中で「長嘯」することはで
きなく「嗚」だけだと表現している。つま
り自分は詩を作ることができず、吼え叫ぶ
だけだと言つてはいる。
しかし、図らずもこの行為が周りを圧倒
し、李徵が望んでいた「高み」へと上りつ

↓	⑥	↓	⑤	↓	④ ↓	③ ↓
(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)
(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)
と (B) の関係が不明確	内向的で人との交わりを持たなかつた	孤独	李徵の鬼才	卑怯な危惧と刻苦を勵う怠惰		
が「本当の自分の表出」だつたら しつくりまとまつた。オシイ。	時でも「上」になつていていたといふことになつてしまふ。	臆病な自尊心				
自由	本当は弱い					
の自由」か明記したほうがよかつた。 「自由」だけでは曖昧すぎる。	(A) と (B) の関係性が無い。「何から					

※【象徴の考え方】(A)と(B)は対照的な表現になる。人間だった時は「虎」が消されていたから詩人として名を成すことができず、「上」にいけなかつた。しかし、虎になり、「虎」が解放されることにより、「高み」へと上ることができた。

前にも虎の
前に沈黙を続けるしか無かつたのだ。
こう考えると李徵が人間の時かなわなか
つた夢が虎になること（本人は虎になるこ
とは望んでいないが）によつてかなつたこ
とがわかる。李徵は（A）人間の時は才能の
不足を暴露するかもしれないとの卑怯な危惧
から、詩人として名を成すことができなか
つた。袁慘が指摘した「非常に微妙な点」
とはそこである。しかし、虎になることで
それが解放され、他を圧倒することができます
たのである。

よつて「虎」は（B）己をさらけ出すことの
象徴であり、李徵の変身の意味は己をさら
け出し、己を磨けというものである。